

第4回野菜需給・価格情報委員会における夏秋キャベツ及び夏秋レタスを
中心とした野菜の需給・価格見通しについての意見の概要

1 日時

平成21年6月11日(木) 14:00~16:00

2 場所

農畜産業振興機構 北館6階 大会議室

3 概要

【春野菜の需給・価格の状況】

(1) (前回の委員会での) 需給と価格の見通しと実績の違いとその要因

①春キャベツ

ア 見通しでは主産地での好天により生育が順調であったことから、入荷量は前年を上回ると見込まれ、価格は安値基調で推移するのではないかとされていた。

イ 実績は、入荷量は平年（過去5か年平均をいう。以下同じ。）を上回ったが、対前年では下回り、価格は全体としては平年を大きく上回った。

ウ 見通しと実績の違いの要因は、3月の天候不順による神奈川の5月上旬の早めの出荷終了及び千葉産の生育遅れ、また、これに伴って小玉化傾向等が見られ、4・5月の出荷量が低調に推移したためである。ただし、東京都中央卸売市場には価格形成の期待から入荷が集中した。

価格については、4・5月は年間を通じて最も需要のある時期であることから、多くの量販店が集客商材としたためである。

②たまねぎ

ア 見通しでは、主産地での好天による順調な生育により、入荷量は対前年増、価格は安値基調と見通した。

イ 実績は、入荷量は全体として平年を下回り、価格は全体としては平年を上回った。

ウ 見通しと実績の違いの要因は、3月の天候不順による小玉化や作型の変更等により出荷量が減ったためである。

【野菜の需給・価格の見通しの立て方に関する意見交換】

【夏秋野菜の需給・価格見通し】

《夏秋キャベツ》

(1) 生産者側の報告

(全般) 主産県は北海道、群馬、長野。昨年安かったため中小規模の生産者は厳しい状況。全般的に今のところ順調な生育及び出荷を見込む。また、低温小雨で小玉傾向だが生育はよく昨年並が見込まれる熊本産の供給状況も注視する必要がある。

(産地農協)

- ・ 作付面積は、平成15年以降横ばい推移で本年は前年並。
- ・ 生育状況は、5月中旬に霜があり若干の遅れがあるものの生育は概ね良好。
- ・ 出荷期間は6月中旬は前年より少なめで後半は前年より多め。出荷ピークは8・9月で、7月は前年より増。
- ・ 出荷量は、前年と同等と思われる。前年は市場隔離を行ったため出荷計画は前年比101となっている。

(2) 委員からは、

- ・ 熊本産の出来、不出来によって関東の販売が変わる。熊本産の供給が足りず、関東市場から九州市場に流れれば関東の価格は維持できるし、熊本が豊作であると関東市場にも回ってきて価格に影響するので、市場としてはそのあたりをよく見て販売していきたい。
- ・ 3月、4月の愛知産等が高値だったため輸入が増えた。国内産を手配できなかった業者が産地情報を確保できなかった結果である。
- ・ バラ売り、カット売りといった販売形態が及ぼす影響にも注目していくべき。
- ・ キャベツの低迷は野菜全体の動きに波及する。
- ・ 関西市場も昨年ほど安くはならないと思うが、空梅雨で供給が増えると厳しい。
- ・ 加工食品の生産量が減っている(対前年4月は91%、5月は80%)。また、量販店にもっと安くできないかと言われてコストダウンを図った結果、1パックの重量を減らす傾向もある。
- ・ カット野菜の原料となるものの輸入は増える。中国の人参を使って欲しいという要望を出す業者もあり、中国産に対する抵抗感がなくなってきたようだ。
- ・ 外食業界は、そうそうメニューの値上げはできないので、市場価格が高い時は安価な輸入品を使わざるを得ない。

(3) 委員の意見を踏まえた上での夏秋キャベツの需給・価格の見通しの野菜需給協議会への報告内容は、

- ・作付面積は前年並、低温の影響を受けたものの、生育は前年並。今後、気象が前年並に推移すれば、特に多かった前年並みの出荷が見込まれる。
- ・価格は国内価格に応じた輸入の動向に左右されるものの、前年並みか、ややこれを上回るこ
とが見込まれる。
- ・なお、九州市場における熊本県産キャベツの供給状況により、関東産（群馬・長野）キャベ
ツの九州への出回り量が影響を受けこれによって、京浜市場の価格が影響を受けることもあ
りうることを考慮する必要がある。

《夏秋レタス》

（１）生産者側の報告

（全般）主産県は岩手、群馬、長野。作柄によって収量が大きく変わる品目。作柄は概ね順調で前年並。群馬の出荷数量は対前年比 106 だが、昨年は豪雨で作柄が悪かったためであり、実際は前年並。出荷状況は、夏のレタスは定植から収穫までの機関が短いため、今後の気象状況に大きく影響を受ける。

（産地農協）

- ・作付面積は、ほぼ前年並。
- ・生育状況は、4月下旬、5月中旬に－4℃～－5℃にまで気温が下がり凍霜害があり欠株と生育の不揃いがある。また、等級も幅広い。
- ・出荷期間は全体的に春は前進化し秋は延びて作期は拡大。6月半ばから量的に増加し、出荷がまとまりそうなのは6月下旬、海の日あたりの7月下旬、盆明け。
- ・出荷量は作柄により、作柄は天候によって激変する。（梅雨、ゲリラ豪雨、高温等）
- ・6/8の13時半、16時、17時にヒョウ交じりの豪雨が降り、そういった天候の影響により生育出荷予測が難しい中で、いかに生産、販売していくかが課題。

（２）委員からは、

- ・8月、9月、10月のレタスは高温で作り難く、台風被害の可能性もあるため、加工ものの価格設定が難しい。
- ・後続産地の兵庫、長崎は、長野が10月まで出荷しているため出荷してこない。
- ・国産に品質低下や欠品があれば輸入に頼るのは仕方なく理解して欲しい。
- ・7月は販売苦戦。8月、9月は産地が限られているので比較的楽である。
- ・非結球レタスが減り、結球レタスが増えているのは、業務筋からの需要が減って内食化の影響であると考えられるため、量販店対応をしっかりとやっていきたい。
- ・レタスは天気の影響を強く受けるので価格は不安定要素が多い。
- ・カットレタスも多く見られるため今度、契約取引が増えていく品目。
- ・ここ数年台風の発生が少ないので今年あたり台風の影響が懸念される。

・価格は、台風等天候の影響がなければお盆までは平年並が見込まれるが、盆以降秋口に供給不足気味になるのではと懸念する。

(3) 委員の意見を踏まえた上での夏秋レタスの需給・価格の見通しの野菜需給協議会への報告内容は、

- ・一部の産地での非結球から結球への変化などがあるものの、作付面積は前年並、生育状況は平年並。今後、気象が平年並に推移すれば、播種期、生育初期の雨にたたられた前年をやや上回ると見込まれる。
- ・このため、価格は、平年ないし、平年を下回ることが見込まれる。ただし、特にレタスは、ゲリラ豪雨・台風などの天候によって作柄が激変する可能性がある。なお、消費については、内食回帰の傾向が見られるものの、依然として加工・業務用を中心とした需要が強く、契約取引の主力品目であるため、国内需給の動向が輸入の増加につながることに注意を要する。

《それ以外の品目》

(夏はくさい) 主産県は北海道、群馬、長野全体的に生育、出荷見通しとも順調。

(秋にんじん) 主産県は北海道、青森。北海道は秀品が少なかった前年を上回り平年並を見込む。

(夏だいこん) 主産県は北海道、青森、岐阜。生育は概ね順調で、出荷は現時点で前年実績をやや上回る見通し。

(たまねぎ) 主産県は北海道、兵庫、佐賀。生育は北海道では豊作基調だった前年をやや下回る恐れあり。出荷は現時点では前年並みの見通し。

【その他、新型インフルエンザの影響等について】

- ・新型インフルエンザについて、会議の中止や休校による学校給食の停止等、多少の影響は見られたが、大きな影響はなかった。
- ・新型インフルエンザの影響はなかったが、各社、BCP（事業継続計画）策定のいい機会だったと考える。当社も策定した。

(参考) BCPとは→大規模な災害・事故・システム障害が発生した場合に、企業や行政組織が基幹事業を継続したり、早期に事業を再開するために策定する行動計画。事前に業務の優先度を確定し、バックアップシステムの整備や要員確保などの対応策を立てておくことで、被害やサービスの受け手への影響を最小限にとどめることができる